

小さな巨人 武満徹

—作曲家として、文章家として—

信濃毎日新聞記者 矢沢 健太郎氏

2025/12/7(日) 14:00—16:00 (開場13:30)

塩尻市市民交流センター(えんぱく) 多目的ホール

定員 / 130人 (先着順)



申し込み

申込開始 : 10月24日(金)

本館総合カウンター、
電話 (0263-53-3365)、
メールのいずれか。
メールの場合は次の内容をお送りください。

宛 先 tosho@city.shiojiri.lg.jp
件 名 「12/7 本の寺子屋申込」
本 文 1 参加者全員の氏名(フリガナ)
2 代表者電話番号
3 お住まいの地区
4 この講演会を知ったきっかけ



講演会の概要

御代田町の山荘を拠点とし、創作に打ち込んだ世界的作曲家、武満徹の世界へいざなう。音楽面に加え、文章家としても高い評価を受けている点にも焦点を当てたい。生い立ちや人物像、没後30年となる現在も作品が世界中で演奏され続ける理由を紹介する。さらに、谷川俊太郎や大江健三郎といった文学者たちとの交流や、人を引きつける文章術についての証言、本人はどんな本を読んでいたのかといった点に、取材や文献を基にして迫ってみたい。

矢沢 健太郎 (やざわ けんたろう)



1974年、飯田市生まれ。大学時代はフィルハーモニー管弦楽団に所属し、武満徹の音楽を聴き始めた。96年、信濃毎日新聞社に入社。小諸支局長、編集局整理部などを経て2010~11年に文化部で芸能を担当。サイトウ・キネン・フェスティバル松本(現セイジ・オザワ松本フェスティバル)に関連し、武満について取材した。21年より軽井沢支局長として、隣町の御代田の山荘を拠点とした武満について改めて取材に取り組み、21年11月~25年3月に文化面で「音の河へ~武満徹 信州で紡いだ調べ~」を連載。軽井沢支局時代は、連合赤軍あさま山荘事件から半世紀を機に、事件当時人質となった女性へインタビューしたことも思い出深い。24年春から諏訪支社次長。